

めざす児童像

自分の考えや意見をもつことができ、  
友達の意見や立場を尊重することができる児童

## 資料名 「ぽんたとかんた」

めあて

よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを  
進んで行おうとする心情を育てる。

### ◎学習活動の様子

教材「ぽんたとかんた」に出てくる「ぽんた」と「かんた」は、大の仲良しである。遊んでいると、かんたはぽんたが止めるのも聞かず、入ってはいけない裏山に入ってしまう。ぽんたは、じっと考えて「ぼくは行かないよ。だってあぶないから。」と叫ぶ。その声に驚いてかんたが裏山から戻り、かんたも自分で考えて裏山に行かないことを決め、二人で気持ちよく遊ぶ、という内容である。

本時では、善悪の判断をする際には、自分でよく考えて決めることが大切であるということに重きをおいた、授業の組み立てのための三つの工夫を考えた。一つ目は教材提示の工夫として、子供たちの身近に起こりうる場面の擬人化された教材を選び、教材の内容に集中して入り込むことができるよう、パネルシアターを用いた。二つ目は、表現活動の工夫として、登場人物の「ぽんたの葛藤場面」で、「行く」か「行かない」か迷っている気持ちを役割演技を行うことで、道徳的な感じ方や考えを深められるようにした。三つ目は、話し合い活動の工夫として、友達の考えや意見を聞きながら、ハンドサインを活用し、友達の意見に対して、「同じだな」「似ている」「付け足し」など、自分の考えをもちながら意思表示できるようにした。



子供たちは元気いっぱいたくさん発表することができた。

成果

- ・パネルシアターを用いることで、教材の内容を分かりやすく伝えることができた。
- ・ハンドサインを活用したことで、友達の意見をよく聞いて話すことができた。また、教師側が意図的に指名することもでき、整理した話し合いをしやすい。

課題

- ・役割演技の工夫（1回目より2回目を短くするなど時間の工夫、発問の言葉の吟味など）について考えていく必要がある。
- ・展開後段の一般化の場面を、発問を具体的にすることで、何を考えさせたいか明確にする。